「越前がに」の資源状況について

今年も、11 月 6 日に福井が誇るブランド「越前がに」漁の解禁を迎えます。6 月に調査船「福井丸」で実施したトロール調査結果等を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図１）

福井県のズワイガニ漁獲量(県底曳網漁業協会集計）は、令和 2 年に 319 トンであった漁獲量が、近年増加傾向にあり、令和 6 年度は 511 t になり、令和 5 年度を 68 トン上回りました。これは、カタガニおよびセイコガニの漁獲が好調に推移したことが要因です。

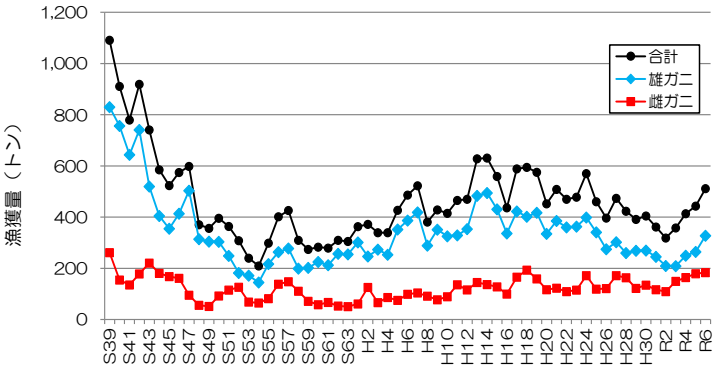

図１　ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図２）

雄の今漁期に漁獲対象となる資源量は 4,716t と算出され、昨漁期(4,055t)よりもやや多いと推定されました。漁獲の主体となる 12 齢・13 齢の資源水準は昨漁期よりもやや高い状況ですが、小型の水ガニとなる 11 齢の資源水準は昨漁期よりやや低い状況にあると考えられます。

雌の今漁期に漁獲対象となる資源量は 1,534t と算出され、昨漁期(1,389t)よりもやや多いと推定されました。今漁期の漁獲対象となるクロコ（経産ガニ）の資源水準は高い状況にあると考えられます。

また、雄雌ともに、来漁期以降に加入する 10 齢の資源水準が昨漁期より低い状況となっています。一方、昨年の調査では少なかった 9 齢未満の小型個体が今年は多く採集されており、将来に渡って安定的な漁獲を維持するためにも引き続き資源管理に努めるとともに、小型個体（稚ガニ）の資源保護が大切になります。

まとめ

昨漁期に引き続き資源状況は良好であり、今漁期の越前がに漁も安定した漁獲が見込まれます。

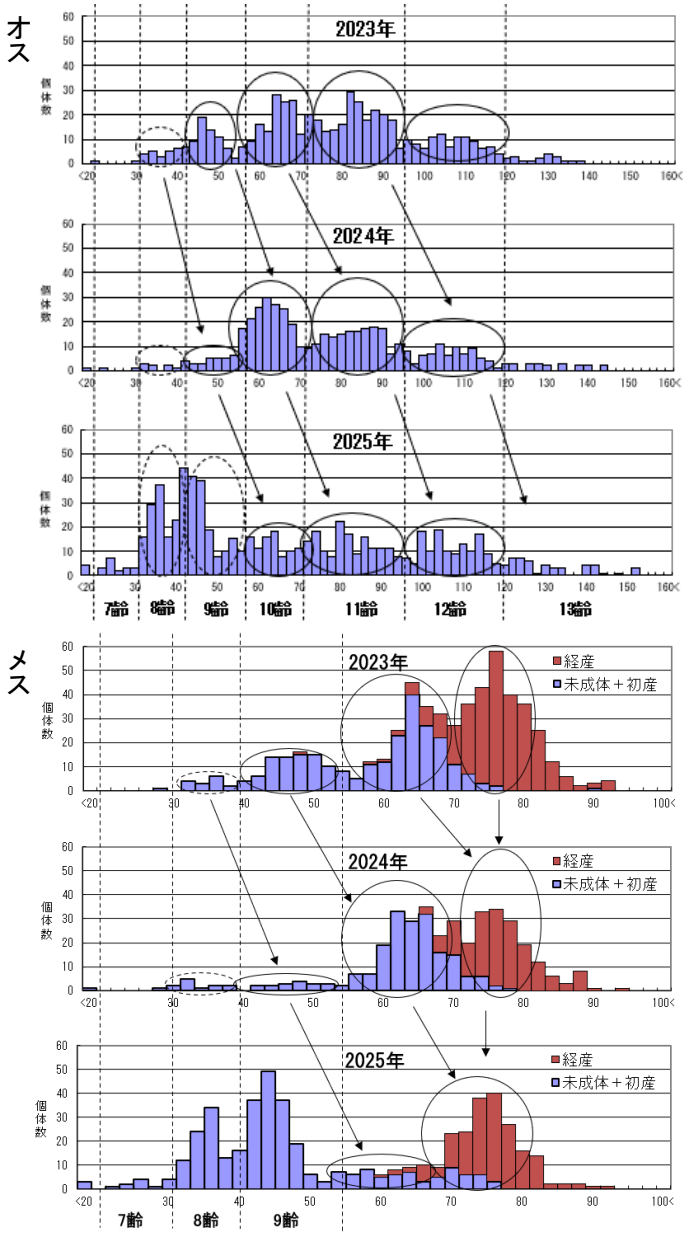

図２　トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成
（横軸：甲幅㎜　縦軸：個体数）

（海洋資源研究センター　松宮　由太佳）